

避難所 施設点検マニュアル

区の職員が、安全点検を行うことができない場合には、避難所を運営する皆さまが、避難所施設の安全点検を行う必要があります。

避難所は、被災者の生活を支える拠点となりますが、避難所の建物自体が被害をうけていると、壁や天井の崩落などで、二次被害の発生も予想されます。

安全点検を行う際に、本マニュアルをご活用ください。
また、安全点検は必ず複数の人で行ってください。

避難所施設安全点検マニュアル

(1) 前提

震災発生時、区は職員や協定団体と連携し、施設の安全点検を行うこととしています。しかし、地震が発生したタイミングにより、区が安全点検を実施する前に避難者が多く集まることも想定されます。

天候や負傷者の有無などによっても、区の点検を待たず避難所の開設が必要とされる場合もあります。

この場合、避難所運営役員や避難者が自ら施設の安全を点検し、屋内への収容を判断することとなります。

二次被害を発生させないためにも、複数の人での的確な点検を行ってください。
(単独行動は禁止)

(2) 点検方法

【注意事項】

余震が続く場合には、危険箇所には近づかないこと。

【順番】 ①建物外観→②建物内部

① 建物外観の点検

ア 目で見てわかる異常がないか点検

◆一見して建物に被害(異常)が感じられる場合は、点検は行わない。

◆建物には近づかず、地域本部に連絡し、判断を仰いでください。

(建物に近づかないこと)

☆外観の点検により、大きな被害が認められない場合に、内部の点検を行います。

② 建物内部の点検

ア 天井、柱、カベ、梁(はり)、床の被害(異常)を確認

イ 窓ガラスの破損(割れ)を確認

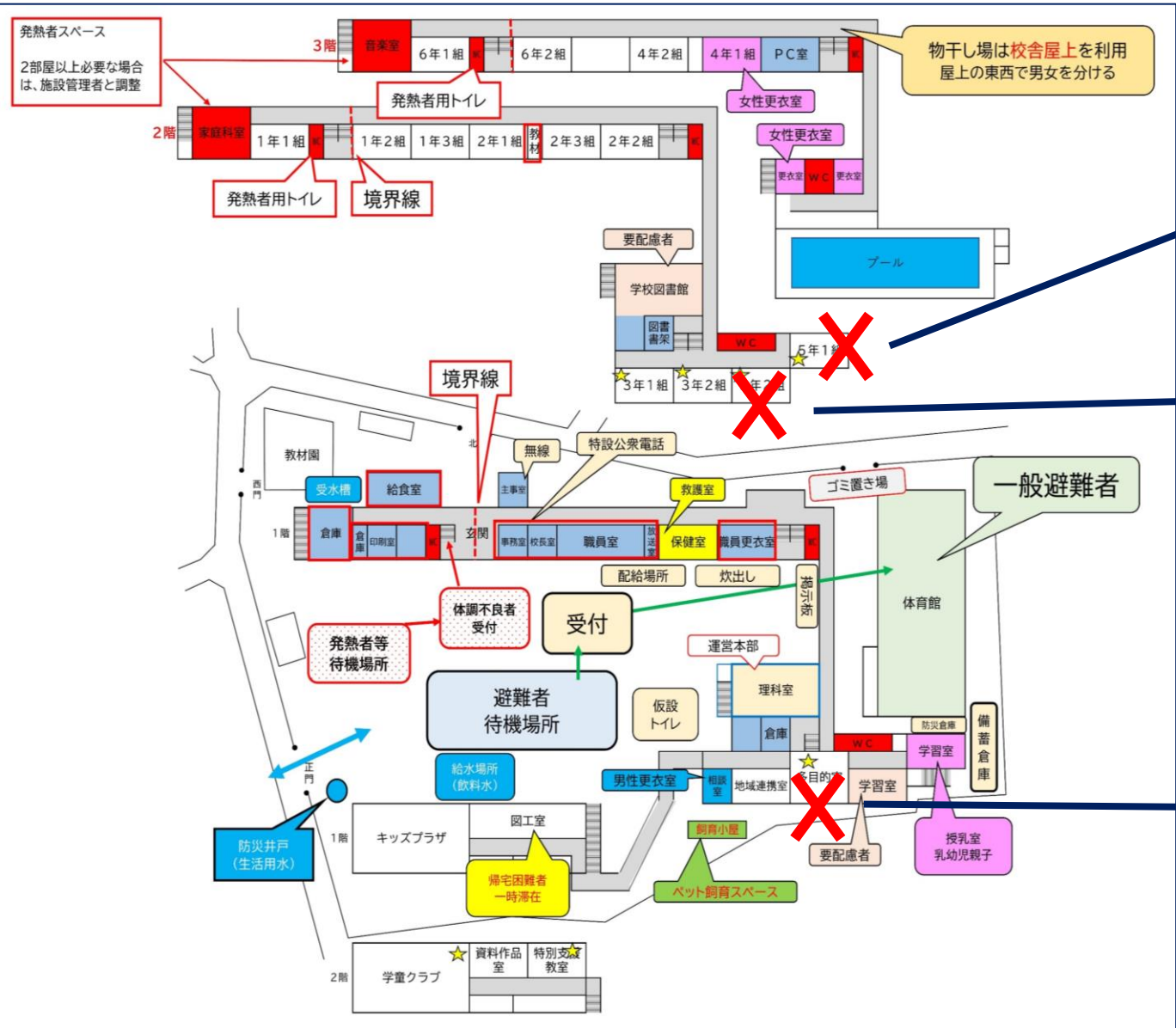
ウ 落下物(照明器具など)の確認

エ ガス漏れ(ガスの臭いを感じるか)

(3)－1 点検項目 建物の外観

点検内容は、「避難所施設利用図」に危険箇所を記録し情報を共有します。

建物の外観			
内容	被害状況		備考
土台(基礎部)	☐ あり	☐ なし	
柱	☐ あり	☐ なし	
カベ	☐ あり	☐ なし	
梁(はり)	☐ あり	☐ なし	
窓ガラス	☐ あり	☐ なし	
校庭(敷地)の陥没	☐ あり	☐ なし	
近隣被害の影響	☐ あり	☐ なし	家屋倒壊など
その他	☐ あり	☐ なし	



危険箇所記録(イメージ)

カベにヒビ2m

柱に亀裂 1m

土台にヒビ 10cm

危険箇所（建物の外観） つづき

[illegible]

被害が分かりづらい場合(場所)は、危険箇所として記録し、安全が確認されるまでは近づかないこと。

(3)－2 点検項目 建物の内部

建物の内部

内容	被害状況		備考
床	☐ あり	☐ なし	
カベ	☐ あり	☐ なし	
柱	☐ あり	☐ なし	
梁(はり)	☐ あり	☐ なし	
天井	☐ あり	☐ なし	
窓ガラス	☐ あり	☐ なし	
落下物	☐ あり	☐ なし	
ガス漏れ(臭い)	☐ あり	☐ なし	
その他	☐ あり	☐ なし	

(4) 危険箇所

危険箇所

場所(どこが)	状況(どのように)ヒビ、破損、傾き、ゆがみ など	備考

危険箇所（建物の内部）つづき

危険箇所		
場所(どこが)	状況(どのように)ヒビ、破損、傾き など	備考



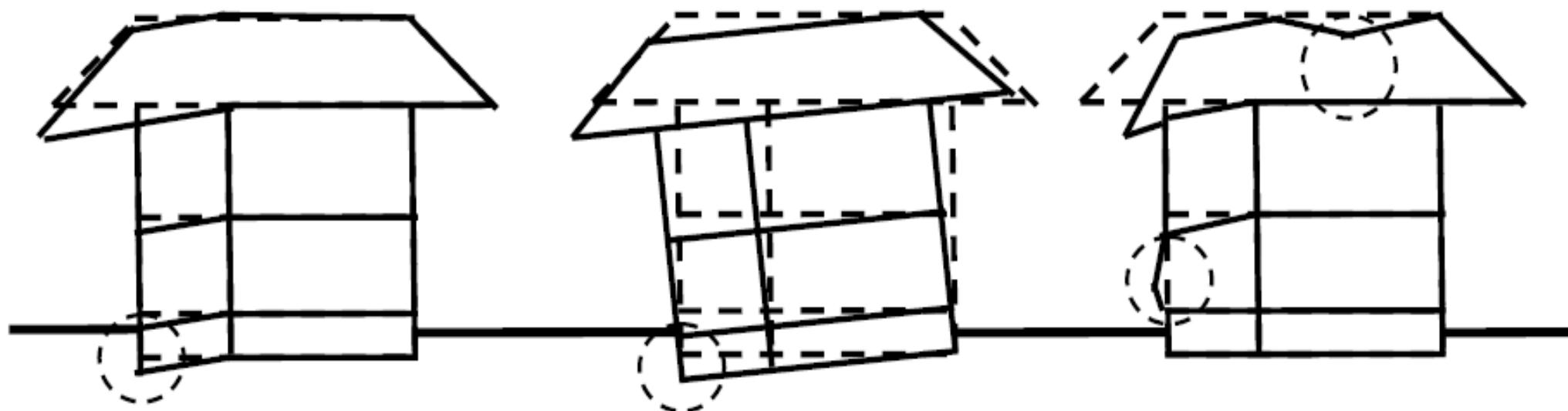
(4) 危険箇所への対応

危険箇所は、「立ち入り禁止テープ」などで、避難者が近づかないようにします。

対応状況			
内容	対応状況		備考
立入禁止表示 ()	☐ 実施済み	☐ 未	
立入禁止表示 ()	☐ 実施済み	☐ 未	
立入禁止表示 ()	☐ 実施済み	☐ 未	
立入禁止表示 ()	☐ 実施済み	☐ 未	
運営委員の共有	☐ 実施済み	☐ 未	
避難者への周知	☐ 実施済み	☐ 未	
地域本部への報告	☐ 実施済み	☐ 未	

(5) 被害のイメージ

(5)-1 建物の沈下



建物の一部や全部が、不均等に沈み込んだ状態など

(5)-2 基礎(土台)の破損

基礎の亀裂



基礎の破損



(5)-3 柱の破損(亀裂)



(5) 被害のイメージ

(5)-4 カベの破損(亀裂)

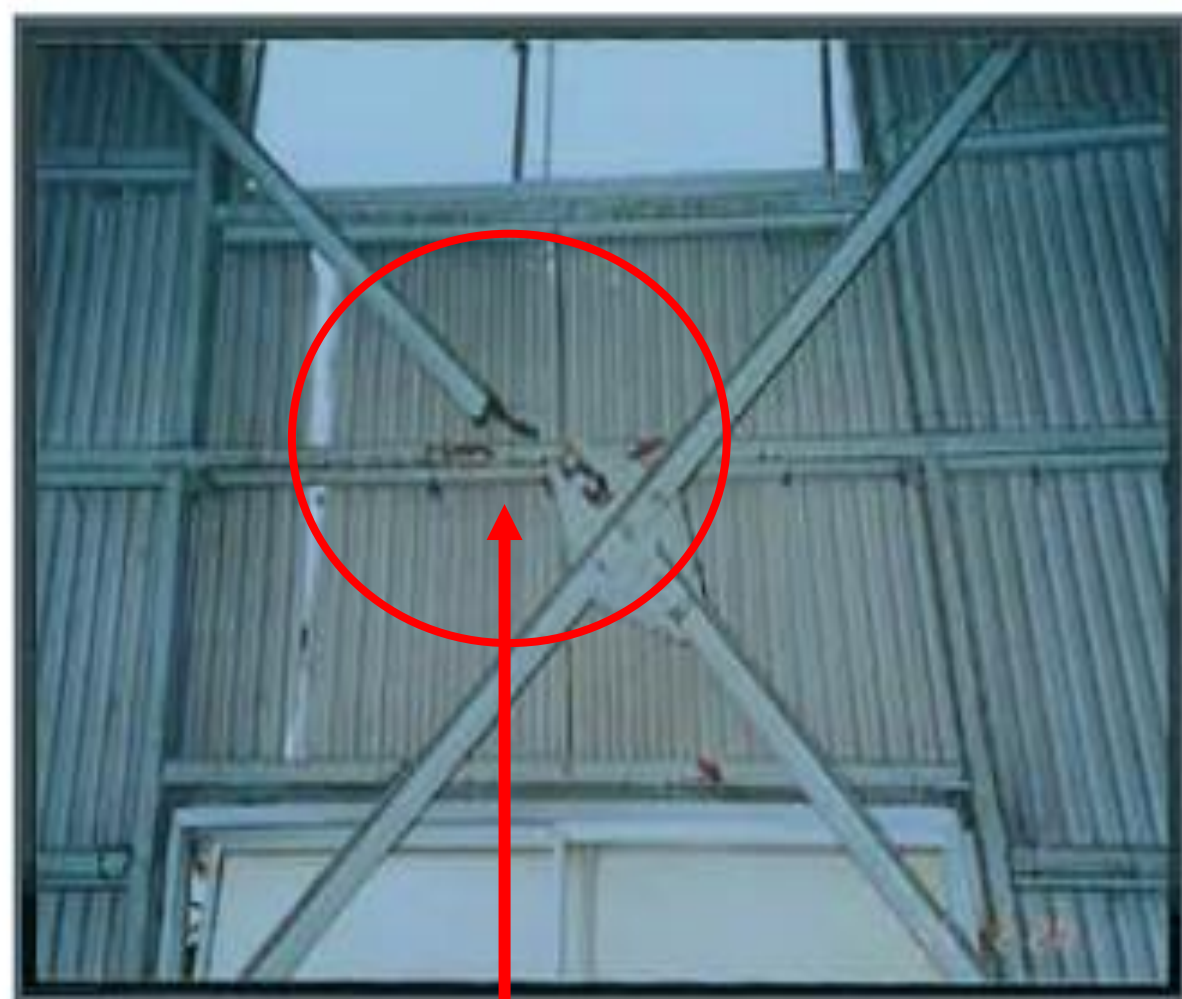


(5)-5 天井仕上げ材の落下



天井仕上げ材が散乱した
体育館内

(5)-6 筋交いの破損



筋交いの破断部分